

2017年度助成 エネルギーシフト部門 成果物一覧

助成先/企画名/活動内容	成果物	
<p>【助成先】 特定非営利活動法人 A SEED JAPAN</p> <p>【企画名】 高レベル放射性廃棄物の最終処分地選定プロセスをフェアにするための、若者による市民活動</p> <p>（活動内容） 原発から出る核のゴミは、すでに使用済み核燃料が 18,000 トンあり、各地の原発サイト内に溜め置かれている。また、再処理で発生したガラス固化体約 2,500 体は、茨城県東海村・青森県六ヶ所村で最終処分場への搬出を待っている状態である。</p> <p>政府は「最終処分場建設」を急ぎ、処分場建設の必要性を訴えるため「科学的特性マップ」を作成し、全国各地で普及啓発事業を展開している。しかし、最終処分をめぐる政策的課題を可視化し正面から向き合わない限り、問題は解決しない。</p> <p>そのため、若手メンバーによるプロジェクト「核ごみプロセスをフェアに！」を立ち上げ、現地調査・オープンミーティング・シンポジウム・アンケート調査・提言等を行った。</p>	1 核ごみプロセスをフェアに！	https://asjkakugomi.amebaownd.com/
	2 「核のごみを地域に持ち込ませないー『科学的特性マップ』で A SEED JAPAN が意見交換会」『社会新報』(2017.09.13)	
	3 「これからどうする？原発のごみ 全国意見交換会開く」『反原発新聞』第 474 号(2017.9.20)	http://www.cnic.jp/hangenpatsu/662
	4 原子力資料情報室「Group Introduction」『NUKE INFO』No.180 (2017.10.1)	http://www.cnic.jp/english/?p=3944
	5 原発おことわり三重の会「8.30『原発のごみこれからどうする？全国意見交換会』報告」『はまなつめ』(2017.10.2)	
	6 提言「地層処分事業推進の前に、信頼の獲得と将来世代への負担軽減のために徹底した検証と情報公開を～NUMO 意見交換会における『不適切動員』を受けて～」(2017.11.27)	https://asjkakugomi.amebaownd.com/posts/3299900
	7 提言「原子力事業・放射性廃棄物処分事業全般への真の『事実関係究明と再発防止に向けた対応』がないままの『対話型全国説明会』再開に抗議する」(2018.2.21)	https://asjkakugomi.amebaownd.com/posts/3743415
	8 「“謝礼で動員”批判相次ぐ『核のごみ』説明再開で」『テレ朝 news』(2018.2.21)	http://news.tv-asahi.co.jp/news_economy/articles/000121388.html
	9 「国際環境 NGO A SEED JAPAN が集会 原発のごみ処分に『公論形成』が必要」『社会新報』(2018.2.28)	
	10 「原子力事業～『対話型説明会』再開に抗議する(抄)」『反原発新聞』第 480 号(2018.3.20)	http://www.cnic.jp/hangenpatsu/728

	11	報告書「高レベル放射性廃棄物および科学的特性マップに対する対応に関する自治体アンケート集計結果」(2018.3.24)	https://asjkakugomi.amebaownd.com/posts/3912325
	12	「首都圏自治体アンケート 核ごみ『受け入れ』ゼロ 処分場の関心低く」『福島民報』(2018.3.25)	https://this.kiji.is/350217707989664865
	13	シンポジウムレポート「検証！原発のゴミ最終処分地選定の前にすべきこと 動員されない若者が考える『現世代の責任』〜」(2018.3.30)	https://asjkakugomi.amebaownd.com/posts/4144902
	14	「核のごみ最終処分場 来月、水戸で住民説明会」『東京新聞(茨城版)』(2018.4.24)	http://www.tokyo-np.co.jp/article/ibaraki/list/201804/CK2018042402000143.html
	15	最終報告書	https://www.actbeyonddtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/asj01.pdf
<p>【助成先】 ストップ・ザ・もんじゅ</p> <p>【企画名】 「仏・高速炉開発アストリッド計画」についての渡仏調査、取材及び院内シンポジウムの開催・政策提言</p> <p>(活動内容) ストップ・ザ・もんじゅは全国の様々な脱原発市民グループと連携しながら、日本政府が核燃料サイクル政策から撤退するよう働きかけるべく、院内ヒアリングや市民集会を開催してきた。</p> <p>「もんじゅ」に失敗しながらも、日本政府は核燃料サイクル政策を維持しようと新高速炉計画を打ち出し、当面はフランスの「アストリッド開発計画」に参入する決定を行った。東電・福島第一原子力発電事故以降、原発再稼働問題は広く世論が意識することとなったが、核燃料サイクル政策の問題点については、脱原発に取り組む市民にも国会議員にもあまり理解されていない。そこで、核燃料サイクル政策の破綻を上塗りすべく出された新高速炉計画の欺瞞を明らかにするために、まずは仏アストリッド開発計画の将来性やプルトニウム政策の問題点を明らかにした。</p> <p>2017年3月末に渡仏し、スーパーフェニックスの廃炉に関わった方やアストリッド計画の実状に詳しい方を取材(計6名)。取材を通じて、仏電力 EDF や原子力巨大企業アレバ(アストリッド開発の中心企業でもある)が深刻な経営危機に陥っていること、アストリッド計画は破棄されるはずだったがその約束が破られたこと、再処理・プルサーマルを続けてもプルトニウムも核のごみも増え続けることなど、重要なことが明らかになった。そのインタビューの重要箇所を中心に編集し、字幕を付けて DVD 化した。</p> <p>取材で明らかになったことをベースに、6月14日には院内ヒアリング集会を実施。2018年2月にも院内ヒアリングを再度開催した。</p>	1	DVD『未来無き原子力、しがみつく日仏ロビー』(本編 36分)	https://www.youtube.com/watch?v=h5VlJl6gJ_E
	2	仏調査およびヒアリング実施の最終報告書(カラー冊子)『未来無き原子力、しがみつく日仏ロビー』	http://www.page.sannet.ne.jp/stophemonju/PDFbank/france_interview_pamphlet_20170810.pdf
	3	「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.70(2017.4.11)	
	4	「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.71(2017.5.25)	
	5	「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.72(2017.7.10)	
	6	「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.77(2018.4.10)	
	7	インタビュー「フランス原子力事情調査報告その1 ベルナル・ラポンシュ氏」(2017.4.5)	https://www.facebook.com/stophemonju/photos/a.1638803789721435.1073741829.1598415120426969/1900151486919996/?type=3&theater
	8	インタビュー「フランス原子力事情調査報告その2 モニック・スネ氏」(2017.5.11)	https://www.facebook.com/stophemonju/photos/a.1638803789721435.1073741829.1598415120426969/1913266752275136/?type=3&theater
	9	インタビュー「フランス原子力事情調査報告その3 ノエル・マメール氏ほか」(2017.6.23)	https://www.facebook.com/stophemonju/posts/1934515536816924

	10 最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/stop01.pdf
<p>【助成先】 e シフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)</p> <p>【企画名】 エネルギー基本計画への働きかけ</p> <p>【活動内容】 e シフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)では、2017 年度はエネルギー基本計画の見直しに注力して活動した。2017 年 2 月から月 1 回の会合で状況や戦略を共有してきた。6 月には、見直しプロセスに透明性・中立性・市民参加を、という要請を作成し、グリーン連合と連名、また約 40 団体の賛同を募って経済産業省に提出した。</p> <p>7 月には「市民が変えるエネルギー基本計画プロジェクト」発足集会を開催、8 月には現在のエネルギー政策の問題点と今後の方向性をわかりやすくまとめたリーフレットとウェブサイト「どうする？これからの日本のエネルギー」をキックオフ、リーフレットは各地の団体が学習会や街頭配布などで活用し、合計約 8 万枚を印刷・配布した。</p> <p>8 月 9 日に総合資源エネルギー調査会「基本政策分科会」が開催され、第 5 次エネルギー基本計画に向けた見直し作業が始まった。翌 10 日に、資源エネルギー庁に対し政府交渉を開催し、プロセスへの市民参加や2012 年の国民的議論の参照などを改めて呼びかけた。</p> <p>9 月から 11 月には、基本政策分科会や、並行して設置された「エネルギー情勢懇談会」の議論を追いながら、リーフレットによる普及啓発や情報発信を行った。</p> <p>12 月には、緊急署名「原発ゼロで日本の未来を切り拓く」を CAN-Japan、グリーン連合、原水禁との共同呼びかけで開始した。</p> <p>1 月には、新潟県知事米山氏講演会を開催、ちょうど柏崎刈羽原発の再稼働審査が認証されたタイミングで新潟県独自の事故検証プロセスを中心とした企画とし、複数のメディアに報道された。</p> <p>2 月には再度資源エネルギー庁と政府交渉を行い、今後のプロセスについて改めて確認・要請した。エネルギー基本計画の改訂は 2018 年の夏までとされているため、活動も 2018 年度に継続し、署名提出やパブリックコメントの呼びかけ、情報発信など継続する。</p>	1 経済産業省に対する申し入れ「エネルギー基本計画見直しに民主的プロセスと市民参加を」(2017.6.16)	http://e-shift.org/?p=3413
	2 市民が変えるエネルギー基本計画プロジェクト 発足集会資料 (2017.07.19)	http://e-shift.org/wp/wp-content/uploads/2017/06/170616_02.jpg
	3 リーフレット「どうする？これからの日本のエネルギー」	http://ene-rev.org/leaflet/
	4 エネルギー基本計画緊急署名「原発ゼロで日本の未来を切り拓く」	http://ene-rev.org/
	5 意見書「原発活用で地球温暖化対策はできません」(2017.12.22)	http://e-shift.org/?p=3468
	6 新潟県知事米山隆一氏講演会 記録 (2018.1.24)	http://e-shift.org/?p=3510
最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/eshift01.pdf	

【助成先】
脱原発弁護団全国連絡会

【企画名】
脱原発裁判についてのビデオ情報発信の強化

(活動内容)

2011年3月の東日本大震災・福島原発事故を受けて、国内のほぼ全ての原発について、原発の運転停止や廃炉を求める裁判(いわゆる脱原発裁判)が起こされている。脱原発裁判の理解者・支援者をひろげるために、2016年度から、裁判の争点などをわかりやすく解説するビデオプログラムの制作に取り組んできた。

2016年度は、各地の原発裁判のポイントを、それぞれの弁護団の若手弁護士が解説するかたちで7本の解説ビデオ(+原発立地で反対運動に関わってきた方のインタビュー2本)を公開した。

1	「そこが知りたい! 脱原発裁判 ~高浜・伊方の不当決定を斬る!」(2017.4.1)	https://www.youtube.com/watch?v=SblQtkS5Lc&feature=youtu.be
2	「そこが知りたい! 脱原発裁判 ~大飯控訴審・島崎証言の意義」(2017.5.1)	https://www.youtube.com/watch?v=r3aOO7ePoiU&feature=youtu.be
3	「佐賀地裁 玄海原発仮処分(却下)報告集会」(2017.6.13)	https://www.youtube.com/watch?v=Nx8GJitOq-Y&feature=youtu.be
4	「松山地裁 伊方原発仮処分(却下)報告集会」(2017.7.21)【前半】、【後半】	https://www.youtube.com/watch?v=cRnmN_Is-dk&feature=youtu.be https://www.youtube.com/watch?v=aEY4zLSnTD4&feature=youtu.be
5	「東海第二原発差し止め裁判」(2017.10.26)【前半】、【後半】	https://www.youtube.com/watch?v=twdAiGcOd_I&feature=youtu.be https://www.youtube.com/watch?v=FwiLzFQru-Y&feature=youtu.be
6	「大飯控訴審 記者会見・報告集会」(2017.11.20)	https://www.youtube.com/watch?v=Qc ttPz8d4TA&feature=youtu.be
7	「広島高裁 伊方仮処分抗告審 決定の瞬間ツイキャス動画」(差し止め決定が判明するのは21分40秒過ぎ) 「広島高裁 伊方仮処分抗告審 記者会見」(2017.12.13)	https://twitcasting.tv/f.1228778343864728/show https://www.youtube.com/watch?v=2lyzN4bmUmY&feature=youtu.be
8	「原発火山ガイドを無力化する『考え方』への抗議声明発表」(2017.3.16)	https://www.youtube.com/watch?v=ELFikegTfKU&feature=youtu.be
9	「大間原発裁判の判決に関する事前記者レク」(2018.3.16)	https://www.youtube.com/watch?v=Skz bmnguweY&feature=youtu.be
10	「函館地裁大間原発裁判判決 記者会見・報告集会」(2018.3.19)	https://www.youtube.com/watch?v=Oxo vmg-eNg&feature=youtu.be
11	「佐賀地裁玄海仮処分 報告集会・記者会見」(2018.3.20)	https://www.youtube.com/watch?v=iDSjLf2n60E&feature=youtu.be
12	「佐賀地裁玄海仮処分報告集会 河西弁護士挨拶_訴訟背景説明」(2018.3.20)	https://www.youtube.com/watch?v=An115Qpk58&feature=youtu.be
13	「高浜ミサイル仮処分 不当決定に対する記者会見」(2017.3.30)	https://www.youtube.com/watch?v=FM AzTZKSWpU&feature=youtu.be

	14 「大間・玄海・高浜原発訴訟の不当判決・決定を斬る！」(2018.4.14)	https://www.youtube.com/watch?v=-2SGDEr5V9Q&feature=youtu.be
	最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/bengodan01.pdf

<p>【助成先】 避難計画を案ずる関西連絡会</p>	<p>1 「3/31 安定ヨウ素剤事前配布を求める政府交渉の確認点[全体版]」(2017.4.5)</p>	<p>http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kakunin_w170415.pdf</p>
<p>【企画名】 若狭の原発の避難計画徹底検証</p> <p>(活動内容) 2017年度の取り組みは、2017年5・6月の高浜原発3・4号再稼働反対の取り組み、夏からの大飯3・4号の再稼働反対の取り組みが中心となった。そして2018年1月からは使用済核燃料の中間貯蔵施設に反対する活動が加わった。</p>	<p>2 高浜3・4号の再稼働反対表明を滋賀県へ申し入れ(2017.4.13) 滋賀県知事回答文書「高浜3・4号は再稼働を容認する環境にはない」「福井・高浜原発3、4号機の再稼働反対を要請 県に市民グループ」『毎日新聞 滋賀版』(2017.4.14) 「高浜原発再稼働に反対、県に申し入れ」『朝日新聞 滋賀版』(2017.4.14) 「『高浜再稼働反対』三日月知事に要請 市民団体など」『京都新聞 滋賀版』(2017.4.14) 「高浜原発再稼働反対を 関西連絡会 県に要請書」『中日新聞 滋賀版』(2017.4.14)</p>	<p>http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/siga_pref_a170501.pdf</p>
<p>3 高浜3・4号の再稼働反対表明を京都府へ申し入れ(2017.4.13) 「高浜再稼働反対 知事に表明要望 市民団体など11人」『毎日新聞』(2017.4.14)</p>	<p>https://mainichi.jp/articles/20170414/ddl/k26/040/493000c</p>	
<p>4 高浜3・4号の再稼働反対表明を舞鶴市へ申し入れ(2017.5.2) 「高浜原発再稼働 舞鶴市は反対を市民団体が要望書」『京都新聞』(2017.5.2)</p>		
<p>5 高浜3・4号の再稼働反対表明を京田辺市(宮津市の避難先)へ申し入れ(2017.5.9) 「京田辺市長らに反対表明を要望 高浜再稼働を巡り市民ら」『京都新聞』(2017.5.10)</p>		
<p>6 「原発なしで暮らしたい宮津の会」による宮津市への申し入れに参加(2017.5.11) 「再稼働反対表明 宮津市に求める市民ら、高浜原発巡り」『朝日新聞 京都版』(2017.5.12)</p>		
<p>7 再稼働等の緊急アンケート結果公表(京都府庁記者クラブ)(2017.5.15)</p>	<p>http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/k_questionnaire170515.pdf</p>	
<p>8 抗議声明「高浜原発4号機の原子炉起動を糾弾する 関西電力は高浜原発の再稼働を即刻中止せよ」(2017.5.17) 「高浜原発再稼働『安全に不安』住民抗議『代替ない』容認の声も」『神戸新聞』(2017.5.18)</p>	<p>http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/statement170517.pdf</p>	

9	抗議声明「大飯原発3・4号機の審査書確定・設置変更許可に強く抗議する」(2017.5.24)	http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/statement170524.pdf
10	高浜 3・4 号の再稼働反対表明、適切なヨウ素剤配布などを米原市へ申し入れ(2017.5.25) 米原市長の回答(2017.6.1)	http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/maibara_a170601.pdf
11	高浜 3・4 号の再稼働反対表明などを舞鶴市へ申し入れ(2017.6.5) 「市民団体がクレーン倒壊事故の住民説明会開催求める」『朝日新聞 丹後・丹波版』(2017.6.6) 「高浜原発停止求め要請書 市民団体が舞鶴市長に」『京都新聞』(2017.6.6)	
12	抗議声明「高浜原発 3 号機の原子炉起動を糾弾する 関西電力は高浜原発 3・4 号機の再稼働を即刻中止せよ 地震でクレーンが倒壊する範囲に電源車等を配置するのは基準違反」(2017.6.6)	http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/statement170606.pdf
13	安定ヨウ素剤の事前配布等を大津市へ申し入れ(2017.6.22) 「県に市民団体が『説明会要求を』高浜クレーン事故」『毎日新聞』(2017.6.23)	
14	おおい町、同町議会へ大飯原発再稼働反対の申し入れ(2017.8.17) 「大飯 3、4 号の再稼働反対要請」『福井新聞』(2017.8.18) 「大飯再稼働反対 町などに要請書」『中日新聞 福井版』(2017.8.18) 「大飯再稼働反対を 脱原発団体が町に要請書」『毎日新聞 福井版』(2017.8.19)	
15	大飯再稼働反対のカラーリーフ「福島原発事故の悲劇を繰り返さないために大飯原発 3・4 号の再稼働に反対しよう」1 万部ほぼ完売(2017.10.24)	http://www.jca.apc.org/mihama/pamphlet/leaf_syokai201710.pdf
16	滋賀県に申し入れ「大飯原発再稼働に反対し、行動してください」(2017.11.1) 滋賀県知事の回答(2017.11.10) 「大飯 3・4 号機再稼働に反対を 県に市民団体申し入れ」『朝日新聞 滋賀版』(2017.11.2)	http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/sigapref_a17110.pdf

17	<p>住民説明会の持ち方について滋賀県に申し入れ(2017.11.22) 滋賀県の回答(2017.11.27) 『『避難対象全住民に説明の場を』大飯原発再稼働反対団体』『京都新聞』(2017.11.22)</p>	<p>http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/siga/pref_a171127.pdf http://www.kyoto-np.co.jp/environment/article/20171122000153</p>
18	<p>使用済核燃料の「中間貯蔵」は受け入れないように京都府へ申し入れ(2017.11.27) 「中間貯蔵施設、受け入れぬ方針再表明 京都府」『京都新聞』(2017.11.28)</p>	<p>http://www.kyoto-np.co.jp/politics/article/20171128000018</p>
19	<p>声明文「福井県知事の大飯原発 3・4号の再稼働同意表明に抗議する 同意権を独占し、福井県民と被害地元関西の声を無視」(2017.11.27)</p>	
20	<p>福井と関西が危ない 大飯原発 3・4号の再稼働を止めよう！ 関西・福井の交流集会(2017.12.16) 『『止めよう大飯再稼働』関西と福井、脱原発で市民交流』『毎日新聞 滋賀版』(2017.12.17)</p>	
21	<p>滋賀県へ大飯原発再稼働反対と住民説明会の再度の開催申し入れ(2018.1.16) 「大飯原発再稼働中止を県に要望」『毎日新聞 滋賀版』(2018.1.17)</p>	
22	<p>和歌山県田辺市の中間貯蔵反対学習会に講師派遣(2018.1.20) 『『和歌山に造るべきでない』核燃料中間貯蔵施設で学習会』『紀伊民報』(2018.1.21)</p>	<p>http://www.agara.co.jp/news/daily/?i=346239&p=more</p>
23	<p>福井・関西の 14 団体として中間貯蔵問題でむつ市長への要望書(2018.1.22) 「無条件受け入れ むつ市は拒否を使用済み核燃料巡り関西などの団体要請」『デーリー東北』(2018.1.23) 「関電使用済み核燃料『むつ市搬入』に抗議 福井、関西の団体」『東奥日報』(2018.1.23)</p>	
24	<p>大飯原発 3・4 号運転差止仮処分裁判第一回審尋[大阪地裁](2018.2.7) 「大飯原発仮処分 双方の意見聞く」『NHK 関西』(2018.2.7)</p>	

25	中間貯蔵施設についてのアンケート 兵庫県日本海側 3 市町結果公表「3 市町全てが『受け入れるつもり はない』と回答」(2018.2.13)	http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/h_questionarie20180213.pdf
26	綾部市に大飯原発 3・4 号の再稼働 反対表明等を申し入れ(2018.3.1) 「大飯再稼働反対 綾部市に求める 市民団体が要望書」『京都新聞』 (2018.3.2)	
27	舞鶴市に大飯原発 3・4 号の再稼働 反対表明、住民説明会開催を申し入 れ(2018.3.8) 「大飯再稼働『舞鶴市は反対を』市民 団体 説明会開催も要望」『毎日新聞』 (2018.3.8)	
28	中間貯蔵施設についてのアンケート 瀬戸内海沿岸の大阪・兵庫の 27 市 町の結果公表「『受け入れるつも りはない』が最多で 12 市町村」 (2018.3.12)	
29	抗議声明「大飯原発 3 号機の原子炉 起動に断固抗議する！」(2018.3.14)	
30	中間貯蔵反対の白浜町長宛要望書 の賛同締め切り。約 2 週間で、全国 から 200 の賛同団体が集まる (2018.3.31)	http://www.jca.apc.org/mihama/nuclear/waste/shirahama_yobo180416.pdf
	最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/kansai01.pdf

<p>【助成先】 認定特定非営利活動法人 沖縄・球美の里</p> <p>【企画名】 沖縄・球美の里 第 75 次母子保養</p> <p>(活動内容) 第 75 回目となる保養は 5 月 20 日から 5 月 29 日の 9 泊 10 日、未就学児を中心に、子ども 24 名、付き添いの保護者 10 名、計 34 名が参加した。</p> <p>島内のイベントが盛りだくさんの時期で、お天気にも恵まれ、久米島の豊かな自然の中で、放射能を気にすることなく、海に入ったり、裸足になり芝生の上や岩山で遊んだりすることができた。</p> <p>甲状腺検診は、たらちねクリニック院長、藤田操先生が担当。保養 8 日目に希望者に実施し、検診結果は画像を含めて保護者に渡している。</p> <p>毎日の保養の様子は球美の里のブログと SNS で発信した。 ※ブログ http://kuminosato.blog.fc2.com/blog-entry-965.htm</p>	1	球美の里ブログ	http://kuminosato.blog.fc2.com/
	2	球美の里ホームページ	http://www.kuminosato.com/
	3	球美の里フェイスブック	https://www.facebook.com/kuminosato.net/
	4	ニュースレター「球美の里だより」	https://www.kuminosato.com/blank-40
	5	インスタグラム	https://www.instagram.com/kuminosato/
	6	「Hello!球美の里」『FM くめじま』毎週金曜 12:30-13:00	
	7	「福島原発事故で被災した子供向け通年保養施設 沖縄・球美の里 向井理事長講演」『北海道新聞』(2017.7.15)	
	8	「なぜ NPO 活動を始めたのですか？ 子どもたちの笑顔が活動の原動力」『新宿 NPO』(2017.10)	
	9	「福島とチェルノブイリの子どもたちの夏」『社会新報』(2017.11.29)	
	10	「Fukushima Mothers」『NHK WORLD TV NHK WORLD PRIME』(2017.12.26)0:30-0:55	
	11	「母たちの祈り～フクシマとチェルノブイリ～」『NHK BS1』(2017.12.29)午後 9 時 00 分(50 分)	https://www.nhk.or.jp/docudocu/program/93115/3115270/index.html
		最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/kuminosato01.pdf

<p>【助成先】 まつもと子ども留学基金</p> <p>【企画名】 まつもと子ども留学継続拡大事業</p> <p>（活動内容） 当団体は H26 年 4 月から福島県の子どもを対象に、過疎の進む松本市、四賀地区で民家を借り、子ども留学事業を行ってきた。市、教育委員会、地域住民の理解と協力のもと、8 名の女子児童生徒を受け入れスタート、H27 年度からは男子中学生 2 名を松本市内の個人宅でホームステイとして受け入れていただき、そのご家族と共に当団体のスタッフが支援を行ってきた。</p> <p>H29 年度は「新高校生 2 名と受験生 3 名の留学支援」「2 組の移住親子の相談支援」「通年自由保養」「新規留学生募集」を取り組んだ。</p>	1	留学生募集広告『福島民友』『福島民報』に掲載(2017.9.9)	
	2	留学生募集ポスター	
	3	ニューズレター8号(2017.8)、9号(2018.3)	
	4	2017年度見学会しおり	
	5	「原発事故避難の子どもたち支援 歌手うえかね健さん」『市民タイムス』(2017.4.25)	
		最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/matsumoto01.pdf
<p>【助成先】 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系大瀧研究室</p> <p>【企画名】 福島原発事故後のヤマトシジミの遺伝子配列比較解析</p> <p>（活動内容） 我々は 2011 年以降 2013 年まで 3 年間にわたり、春と秋に福島県およびその周辺地域にてヤマトシジミの採集を行ってきた。これまでの研究では、ヤマトシジミの形態異常および死亡を基準として、福島原発事故の放射能汚染の生物学的影響について論じてきた。しかし、これだけでは、本当に分子レベルで影響があったかどうか明確ではない。放射線の主なターゲットは DNA だと言われているため、ヤマトシジミの DNA に放射線による傷が入った可能性は高いが、そのような研究はこれまでには行われてこなかった。</p> <p>今回、3 年間のヤマトシジミのサンプルから DNA を調製し、PCR にてミトコンドリア遺伝子である COI を PCR で増幅し、その増幅産物を直接サンガー法でシーケンスすることでその DNA の傷(塩基置換)を探索する研究を行った。</p>	1	2011~2013 年までに汚染地域・非汚染地域で採集したヤマトシジミ検体からの PCR 増幅産物の DNA 配列解析結果(論文発表時点で公開予定)	
	2	調査前に本プロジェクトの開始をホームページやマスコミを通して発信	http://w3.u-ryukyu.ac.jp/bcphunit/DNA.html
	3	調査結果速報の研究室ウェブサイトによる発信	http://w3.u-ryukyu.ac.jp/bcphunit/DNA.html
	4	詳細な調査結果を科学論文として発表予定	
		最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/ryukyu01.pdf

<p>【助成先】 いわき放射能市民測定室「たらちね」</p> <p>【企画名】 たらちねβ線核種測定ラボプロジェクト 2017 年度</p> <p>（活動内容） 福島県内で測定活動をするたらちねでは、内部被曝の影響が大きいβ線核種であるストロンチウム 90 とトリチウムの測定の必要性を感じ、2014 年に abt. の支援をいただき、日本で初めてのβ線核種を測定するラボを開設した。</p> <p>3 年目となる 2017 年度は、作業の意味の知識や、良い結果を得るための試行錯誤まで探求を深めるようになった。海洋汚染を調査する際の海水試料や、福島県内の土壌汚染の測定などは、これまで回収率が上がらず、データとして信頼できるところまで進んでいなかったが、今年度は土壌の回収率を 70%～80%まで上げることができ、原発事故でストロンチウム 90 の汚染があったのかなかったのかについて、きちんと調査することができるようになった。</p> <p>海洋調査では、福島第一原発の事故現場から地下水に混じり、日々流れ出すトリチウムに注視し測定を行っている。β線のエネルギーが低いトリチウムは「健康に影響はない」とされて、汚染タンク内のトリチウムも海洋に放出することが検討されている。しかし、トリチウムは体内に取り込まれると、電離密度が高くなり、セシウムよりも悪影響を及ぼす危険があることは、専門家の間では常識になっている。測定結果の評価は今すぐ出せるものではないが、未来へ伝えなければならない一つのこととして今後も測定を継続する。魚の測定も実施し、食べるための安全を確認することも行っている。</p>	1	絵本プロジェクト「たらちね ストロンチウムの巻」(案)	
	2	毎月の測定結果 合計 1,052 件 (2017.4～2018.3)	
	3	海洋調査結果 合計 4 回分 (2017.4～8)	
	4	βラボ作業日報	
	5	阿久津幸彦「2017 年夏のイベント(海洋調査のレポート)」『JFP 国内事業部公式ブログ』(2017.9.15)	http://blog.japanplatform.org/entry/2017/09/15/152127
	6	岩崎雅典(監督)「福島生きものの記録 5(海洋調査ほかを取材)」	https://www.mmip.or.jp/pole2/2017/fukushimaikimononokiroku5/fukushimaikimononokiroku5.html
	7	助成事例の詳細「たらちねβ線放射能測定プロジェクト」高木仁三郎市民科学基金	http://www.takagifund.org/archives2/detail.php?id=392
	8	吉澤恵理「東京から岩手、掃除機ゴミから高い放射線量検出…福島母親『子供が使命感から廃炉作業従事…』」『Business Journal』(2017.5.26)	http://biz-journal.jp/2017/05/post_19221_3.html
	9	山下めぐみ「フクシマから 7 年経った日本の原子力事情(ラッシュサミット出席時レポート)」『LUSH』	https://jn.lush.com/article/7years-post-fukushima
	10	豊田直巳「子どもたちに少しでも安全、安心なもの食べさせたい」『週刊金曜日』No.1175(2018.3.9)	http://www.kinyobi.co.jp/tokushu/002514.php
	11	今中哲治講演会および測定報告会資料(2018.3.3)	https://tarachineiwaki.org/meeting
		最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/beta01.pdf

<p>【助成先】 いわき放射能市民測定室「たらちね」</p> <p>【企画名】 たらちねクリニック・プロジェクト 2017 年度</p> <p>(活動内容) 目標: 2017 年度患者受付予定数: 14, 5 名程度 年間 2,400 名程度 クリニックの開院は厚生局への申請の都合で 1 ヶ月遅れ 6 月からとなった。医療機関の広報は禁忌事項が多く、クリニックを利用する人々に「知ってもらうこと」のは、とても大変なことだと実感した。開院当初は 1 日の患者数が 1 人や 0 人ということもあったが、現在では多いときで 10 名ほど、少なくとも 3 名は利用者がある状況となった。目標に掲げた人数がコンスタントに確保できるまでには、あと 1 年～2 年ほどかかることが予想される。</p> <p>目標: 2017 年度事業収益予定: 720 万円 (2,400 名 × 3,000 円程度) 2017 年 6 月～2018 年 3 月までの 10 カ月のクリニック収入は 3,947,660 円である。目標の金額には達していないがスタート時の 6 月は 233,670 円であった収入が年度末の 3 月には 682,540 円までに増加し、毎月、月を追うごとに利用者の人数は増えてきていることがわかる。</p> <p>目標: 診察室では話せなかったことのフォロー体制や、母と子のためのマッサージケア、栄養相談ケア 各方面の専門家と実現にむけて相談を行っている。2017 年度にすべてのことが準備できるか今の段階では決定できないが、できれば、それらのケアも 2017 年度に準備 2018 年度から標準的に行えるよう構築したい。一人一人を大切に、自分たちが大切に扱われていると感じてもらえるようなクリニックを目指す考えである。</p> <p>セラピールーム Sir Pirika(シッピーリカ)を開設し、子どもたちへのマッサージと合わせ母親たちにもマッサージのケアを提供している。また、セラピーとして小児精神科の渡辺久子医師や、心理士でありセラピストである徳山幸江氏と連携し「遊びの力」から人々の心をほぐし、癒やすための「お絵描き」や「粘土」などを取り入れている。2018 年度は箱庭による砂遊びのプログラムも開始する予定である。</p>	1 「いわき市に NPO がクリニック開設 甲状腺の診察と治療」『朝日新聞』 (2017.5.22)	
	2 「6 月 1 日、『たらちねクリニック』オープン！」『JPF 国内事業部公式ブログ』(2017.6.2)	http://blog.japanplatform.org/entry/2017/06/02/151917
	3 「いわきに NPO 開設のクリニック 患者の不安に向き合う」『東京新聞』 (2017.9.19)	http://www.tokyo-np.co.jp/feature/tohokuiisin/archive/fukushima-report/list/CK2017091902000157.html
	4 松中みどり『「ひとりひとりの事情に向き合って」、たらちねクリニック・藤田操院長インタビュー』『アイデアニュース』(2017.12.15)	https://ideanews.jp/archives/51816
	5 「＜原発事故＞甲状腺検査の機器そろえ診療所開設」『河北新報』 (2017.5.17)	http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201705/20170531_63030.html
	6 「NPO 診療所いわきに お母さんの不安に寄り添う きょう開業 甲状腺、内部被ばく検査も／福島」『毎日新聞』(2017/6/1)	https://mainichi.jp/articles/20170601/ddl/k07/040/240000c
	7 「NPO が『医療施設』開設 いわきに国内初 6 月 1 日から診療」『福島民友新聞』(2017.5.26)	https://www.47news.jp/457463.html
	8 今中哲治講演会および測定報告会資料 (2018.3.3)	https://tarachineiwaki.org/meeting
	9 たらちねクリニック患者数データ	
	最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/clinic01.pdf

<p>【助成先】 みんなのデータサイト運営委員会</p> <p>【企画名】 みんなのデータサイト リニューアルプロジェクト:放射能測定結果をわかりやすく伝えるプラットフォームへ</p> <p>(活動内容) 2017年9月に日本語サイトをフルリニューアル。トップページで「食」「土」のカテゴリページへの入り口を設置。また「放射能を学ぶ」「解析」カテゴリページを新設。これまでの「単なるデータの羅列」ではなく、読み物としてのコンテンツや原発事故にまつわること、またこれまでに測定したデータなどの解析結果の掲載ができるようになった。</p> <p>英語サイトについては、2017年12月末に新日本語サイトに対応する形でフルリニューアルを実施。コンテンツの英語化も順次行なっている。</p> <p>また英語サイトの完成と前後して海外からのアプローチが増加。当初予定していたアプローチとは異なるが、各国の方とつながりを持つことが出来た。2月にはロンドンのLUSH サミットへの参加を通じて日本の原発事故の現状をリーフレットや講演、展示で伝える機会を得た。さらにベルギーの市民科学についての研究者と大阪大学との合同調査に参加し、日本における市民科学の実践に関する実態調査に協力する機会を得た(レポートは34測定室と60人以上のメンバーにより作成、約200枚。残念ながら非公開)。2018年も継続してベルギーとの連携が約束されており、今後の展開を期待したい。</p> <p>また台湾とのコネクションにおいては、我々の市民測定データを台湾における反原発活動のために活用される見込みとなっているなど、我々のデータや活動が海外に広がることの実感を得ている。他、参加測定室に韓国忠南大学からの訪問が実現、フランス、ノルウェーなど海外の方に対して日本の実情を伝えることも参加測定室の努力で実現でき、逆に日本の市民への暖かいビデオメッセージを受け取る企画を3月のイベントで実施することができた。</p>	1	リニューアル・日本語サイト	http://minnanods.net/
	2	リニューアル・英語サイト	http://en.minnanods.net/
	3	英語版リーフレット「Map of 3,400 spots in 17 prefectures and the city of Tokyo」	http://en.minnanods.net/soil/soilleaflet.html
	4	「市民科学の実践 放射能を測る」『鎌仲ひとみ動画メルマガカマレポ』No.48 (2017.6.14)	https://www.youtube.com/watch?v=RhE5HluWOHo&feature=youtu.be
	5	大沼淳「過酷な放射能汚染地域では帰還の強制ではなく 避難・移住の権利を～今からでも遅くはない、被曝限度を年間1ミリシーベルトに戻さなければ～」『図書新聞』No.3308 (2017.6.24)	https://minnanodasite.blogspot.jp/2017/07/c2017624.html
	6	日隅一雄・情報促進流通基金 大賞受賞(2017.12.15) 「日隅一雄情報流通促進賞 大賞受賞のご報告」『みんなのデータサイト 新着ブログ』(2017.12.20)	http://hizumikikin.net/2017/11/13/%E6%97%A5%E9%9A%85%E4%B8%80%E9%9B%84%E3%83%BB%E6%83%85%E5%A0%B1%E6%B5%81%E9%80%9A%E4%BF%83%E9%80%B2%E8%B3%9E-2017-%E5%A4%A7%E8%B3%9E%E6%B1%BA%E5%AE%9A/
			https://minnanodasite.blogspot.jp/2017/12/blog-post.html
	7	LUSH サミット・ロンドンに展開した展示物(2018.2)	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/mds7.pdf
	8	LUSH サミット・イベントステージ「震災・原発事故から7年経ついま」動画(2018.2.14)	https://in.lush.com/article/7years-post-fukushima
	9	山下めぐみ「フクシマから7年経った日本の原子力事情」(Lush サミットのレポート)『LUSH Japan』サイト	https://in.lush.com/article/7years-post-fukushima
	10	「【報告】みんなのデータサイトは『LUSH SUMMIT2018』in London に行ってきました」『みんなのデータサイト 新着ブログ』(2018.3.3)	https://minnanodasite.blogspot.jp/2018/03/lush-summit2018inlondon.html
11	平井有太「LUSH 世界の、社会問題解決への萌芽」(Lush サミットのレポート)『ENECT』 第1回(2018.2.16) 第2回(2018.3.10) 第3回(2018.3.15)	http://enect.jp/pioneer/lush-01/ http://enect.jp/pioneer/lush-02/ http://enect.jp/pioneer/lush-03/	

	12	石丸偉丈「土壌汚染マップを作成し可視化する」『ふえみん婦人民主新聞』No. 3182(2018.3.15)	
		最終報告書	https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2018/06/mds01.pdf